

63 期環境経営レポート

活動期間 2023 年 8 月 ～ 2024 年 7 月



環境省
エコアクション 21
認証番号0002873



2024/08/26

トシダ工業株式会社 本社工場

目 次

I	環境経営方針	1
II	組織の概要	2
III	実施体制とレイアウト図	3
IV	環境経営目標	4
V	環境経営計画に基づき実施した取組内容	5
VI	環境経営目標の実績，環境経営計画の取組結果と評価.....	6
VII	周辺の自然環境との調和と地域活動	8
VIII	緊急事態対応訓練.....	8
IX	次年度の環境経営目標と取組.....	9
X	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	11
XI	代表者による全体の評価と見直し・指示	12

I 環境経営方針

環境理念

トシダ工業株式会社は、地球環境の保全がこれからの企業活動において最重要課題と認識し、富士山の自然環境の恩恵を継続的に維持する為にも、生産活動を通じて環境負荷を低減するための環境マネジメントシステム活動を展開し、従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

基本方針

当社は環境理念に基づき、以下の基本方針を定め、継続的な環境経営を展開します。

1. 環境関連法規の遵守

環境に関連する法律及びその他の要求事項を遵守し、緊急事態による環境への影響を除去して環境の保全に努めます

2. 地球温暖化防止のための省エネ活動の推進

電力、石油製品、L P ガスの削減活動に取り組み、二酸化炭素の排出量を抑えて地球温暖化防止に努めます

3. 省資源の推進

限りある地球資源の枯渇防止に努め、再生資源材料やグリーン調達で環境に配慮した製品の提供に努めます

4. 廃棄物の削減の実施

廃棄物の分別回収の徹底と、リサイクル化等により廃棄物の削減に取り組み、循環型社会形成推進に努めます

5. 水質汚濁の防止と水使用量の削減の実施

工場排水の管理を徹底し、生態系に配慮して水質に細心の注意を払い、河川汚濁の防止に努めると共に節水活動による水使用量の削減に努めます

6. 周辺の自然環境との調和

工場周辺の美化に取り組み環境保全に努めます

7. 環境啓蒙活動の展開と地域活動への参加

働く者一人ひとりが本活動を理解し、積極的に活動できるよう環境方針を全従業員に周知します。

また、環境レポートの公表や地域で主催する環境保全活動にも積極的に参加して地域への貢献に努めます

8. 化学物質の適正管理の実施

有害性のある化学物質の環境へ排出を抑制するため、S D S に基づく適正管理に努めます

改訂日：2019 年 8 月 1 日

制定日：2007 年 12 月 21 日

代表取締役社長 歳田 光太郎

Ⅱ 組織の概要

会社概要

1	事業所名	トシダ工業株式会社(本社工場)
2	代表者名	代表取締役社長 歳田 光太郎
3	所在地	静岡県富士宮市万野原新田 3647-3
4	環境管理責任者	大川 達也
5	環境推進事務局	加々美 憲司
6	連絡先	電話 0544-24-3311 FAX 0544-26-5649
7	認証・登録範囲	「引抜き鋼管の製造及び販売」
8	対象事業所	本社工場（本社工場、東工場、東倉庫、南工場）
9	主な製品	機械構造用・油圧系配管用・シリンダーチューブ・その他各種精密鋼管
10	会社創立	昭和 36 年 8 月 1 日
11	資本金	8,155 万円
12	本社売上高 ^{※1}	4,382 百万円
13	本社製品生産量 ^{※1}	15,127 t
14	本社従業員数 ^{※2}	57 名
15	本社所有面積 ^{※3}	15,503 m ²



※1 第 63 期（2023 年 8 月～翌 7 月）実績 ※2 2024 年 7 月末現在 ※3 賃借を除く土地面積

沿革

- 昭和 22 年創業。
富士宮市内にて注射針用ステンレスパイプ引抜工場開設
- 昭和 36 年法人設立。鋼管引抜を主力とし、ステンレス部門を他へ移転
- 平成 4 年芝川工場開設
- 平成 9 年タイ国に合併会社 SPM 設立に出資
- 平成 16 年中国に子会社 TSD 設立
- 平成 18 年インドネシアに合併会社 INP 設立に出資
- 平成 20 年東京に子会社 TSD トレーディング(株)設立

『関連事業所』 芝川工場

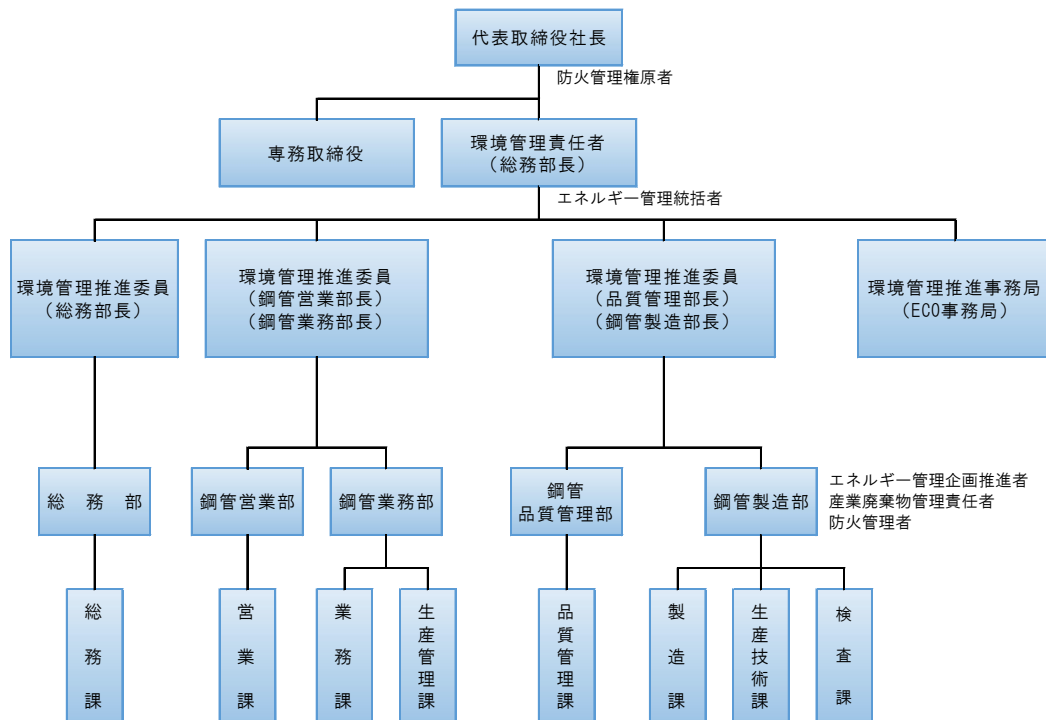
所在地 静岡県富士宮市上柚野 288-2

エコアクション 2.1 認証取得済み（2006.9.26 No.0001044）

Ⅲ 実施体制とレイアウト図

実施体制

(エコアクション 21 対象組織) 2024.8.1 改訂



責任及び権限

■代表取締役社長

最高意思決定者として環境マネジメントシステムを確立、実施、維持する

■環境管理責任者

環境マネジメントシステムの確立、実施、維持に関する責任を有する

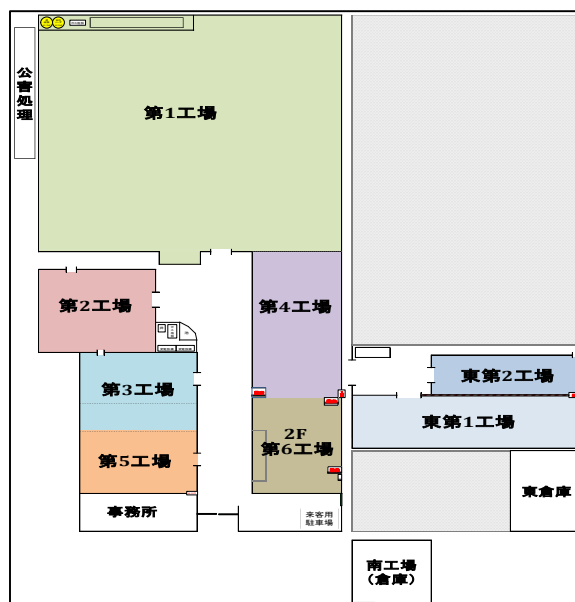
■環境推進委員

各職場のリーダーとして環境マネジメントシステムの確立、実施、維持に関する責任を有する

■環境管理推進事務局

環境管理推進の円滑な運営のため、職場内、及び各職場間の連絡・調整を行うとともに環境管理責任者を補佐して適用組織における環境マネジメントシステムを円滑に運営する

レイアウト図



IV 環境経営目標

第63期 環境経営目標

1. 運用期間(2023年8月～2024年7月)の環境目標

項目	単位	基準期間	運用期間	
		59期 2019.8月 ～ 2020.7月	63期 2023.8月 ～ 2024.7月	
		基準値	目標削減率	目標値
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	2676854	-3%	2596548
エネルギー使用量	kl/t	0.10240	-3%	0.09933
購入電力	kl/t	0.04718	-3%	0.04577
ガス	kl/t	0.05522	-3%	0.05356
上水道使用量	m ³	405.5	-2.0%	397.4
地下水使用量	m ³ /t	3.846	-2.0%	3.769
産業廃棄物排出量	トン	994.77	-3%	964.92
一般廃棄物(可燃ごみ)	kg	323	-3%	314
化学物質使用量	SDSに基づく適正管理			
環境に配慮した物品の使用	指定TSコードの購入、再生品管端梱包用ビニール袋の購入			

＜備考＞

- 「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー(2017年度)の調整後排出係数「0.462kg-CO₂/kWh」を使用した。
- 「エネルギー使用量」「地下水使用量」は生産量による変動があるため、原油換算使用量を生産数量で割った原単位を目標値に設定する。
- 「原油換算使用量」の換算係数は「購入電力(昼)0.2572(熱量GJ9.97×0.0258kl/GJ)」「ガス1.3106(熱量GJ50.8×0.0258kl/GJ)」とする。
- 「化学物質使用量」「環境に配慮した物品の使用」の数値目標の設定は困難なことから、定性的な目標とする。
- 事業年度8月～翌年7月。

2. 中長期の環境目標

項目	単位	基準年度	目標年度			
		59期 2019.8月 ～ 2020.7月	64期 2024.8月 ～ 2025.7月	65期 2025.8月 ～ 2026.7月	66期 2026.8月 ～ 2027.7月	
		基準値	削減率	削減率	削減率	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	2676854	-4%	-5%	-6%	
エネルギー使用量	kl/t	0.10240	-4%	-5%	-6%	
購入電力	kl/t	0.04718	-4%	-5%	-6%	
ガス	kl/t	0.05522	-4%	-5%	-6%	
上水道使用量	m ³	406	-3%	-4%	-5%	
地下水使用量	m ³ /t	3.846	-3%	-4%	-5%	
産業廃棄物排出量	トン	994.77	-4%	-5%	-6%	
一般廃棄物(可燃ごみ)	kg	323	-4%	-5%	-6%	
化学物質使用量	SDSに基づく適正管理					
環境に配慮した物品の使用	指定TSコードの購入、再生品管端梱包用ビニール袋の購入					

＜備考＞

- 「購入電力」の二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー(2017年度)の調整後排出係数「0.462kg-CO₂/kWh」を使用した。
- 「エネルギー使用量」「地下水使用量」は生産量による変動があるため、原油換算使用量を生産数量で割った原単位を目標値に設定する。
- 「原油換算使用量」の換算係数は「購入電力(昼)0.2572(熱量GJ9.97×0.0258kl/GJ)」「ガス1.3106(熱量GJ50.8×0.0258kl/GJ)」とする。
- 「化学物質使用量」「環境に配慮した物品の使用」の数値目標の設定は困難なことから、定性的な目標とする。
- 事業年度8月～翌年7月。

V 環境経営計画に基づき実施した取組内容

第 63 期 環境経営計画に基づき実施した取組内容

目標	項目	実施事項	責任者	スケジュール (運用期間: 2023年8月～2024年7月)											
				8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
二酸化炭素排出量の削減	購入電力	継続 工場内の設備稼働停止時の待機電源OFF	製造部 望月												
		新規 PIC工程コンプレッサー更新 ※省エネ法中長期計画													
		継続 事務所内照明の昼休み消灯	総務部 大川												
		継続 事務所内室内温度(夏25℃以上、冬28℃以下)推奨													
		継続 事務所内空調(エアコン)更新 事務所役員室1台(使用冷暖R22)													
上水道使用量の削減	上水	継続 節水コマの継続利用	総務部 大川												
		継続 蛇口、冷水機等の日常点検													
地下水使用量の削減	地下水	継続 冷却水循環利用	製造部 望月												
		継続 冷凍機の水制御装置作動													
		継続 貯水槽オパブローの排水回収													
		継続 地下水使用量の把握(毎月)													
		継続 対策の必要性判断と使用量削減対策													
		継続 工場内配管の漏水調査と対策 (焼鈍炉更新時に酸洗南側を漏水調査予定)													
産業廃棄物排出量の削減	産業	継続 産業廃棄物のリサイクル化推進(汚泥・廃プラ・木くず・廃油・廃油スラッジ・素管結束紐(廃プラ)の最終リサイクル)	産業管理責任者												
		継続 産業廃棄物の分別実施	製造部 望月												
		継続 低スラッジ型皮膜のテスト(公害処理の汚泥排出量低減) ※焼鈍炉更新後、焼鈍前皮膜工程を削除できるか見極め													
一般廃棄物排出量の削減	可燃	継続 紙ごみの分別	総務部 大川												
		継続 社内回覧及び配布物の電子化推進 (各種会議資料・報告書等)													
		継続 令和6年1月電子取引データの保存の完全義務化に向け、 宥恕措置の間における準備、検討 ◎電子取引の洗い出し ◎電子取引データの保存方法の検討 ◎電子保存システムの検討													
化学物質のSDSに基づく適正管理	化学物質	継続 第1種指定化学物質「チオ尿素」「亜鉛の水溶性化合物(硝酸亜鉛)」の取扱量把握	製造部 望月												
		継続 「チオ尿素」「亜鉛の水溶性化合物(硝酸亜鉛)」のSDSに基づく適正管理(取扱者への教育訓練)													
		継続 SDS変更確認・最新版入手													
環境に配慮した物品の使用		継続 指定TSCコードの購入	製造部 望月												
		継続 再生品管端梱包用ビニール袋の購入													
工場周辺の清掃活動		継続 工場周辺の清掃	総務部 大川												
ボランティア活動の実施		継続 年2回以上、ボランティア活動への参加													
防災訓練 緊急事態対応訓練の実施	防災	継続 防災訓練 (初期消火、放水、焼鈍炉移動式消火設備取扱い、避難)	防火管理者												
		継続 緊急事態対応訓練	製造部 望月												
		継続 防災倉庫の備品チェック	総務部 大川												

省エネ法長期目標：特定事業者の指定取消し

芝川工場を含む事業者全体の年度（4月1日～翌年3月31日迄）の原油換算エネルギー使用量
1,500 kℓ未満

VI 環境経営目標の実績，環境経営計画の取組結果と評価

第 63 期 環境経営目標の実績

項目	単位	基準期間	運用期間				
		59期 2019.8月 ～ 2020.7月	63期 2023.8月 ～ 2024.7月				
		基準値	目標削減率	目標値	実績値	目標値に対する削減率	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	2676854	-3%	2596548	2823584	+8.74%	×
エネルギー使用量(原単位)	kl/t	0.10240	-3%	0.09933	0.08984	-9.56%	○
購入電力	kl/t	0.04718	-3%	0.04577	0.04225	-7.70%	○
ガス	kl/t	0.05522	-3%	0.05356	0.04759	-11.15%	○
上水道使用量	m ³	405.5	-2.0%	397.4	387.0	-2.62%	○
地下水使用量(原単位)	m ³ /t	3.846	-2.0%	3.769	3.754	-0.40%	○
産業廃棄物排出量	トン	994.77	-3%	964.92	975.63	+1.11%	×
一般廃棄物(可燃ごみ)	kg	323	-3%	314	354	+12.77%	×
化学物質使用量		SDSに基づく適正管理					
環境に配慮した物品の使用		指定TSコードの購入、再生品管端梱包用ビニール袋の購入					

<備考>

1. 二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー(2017年度)の調整後排出係数「0.462kg-CO₂/kWh」を使用した。
2. 実績削減率は、目標値に対する削減量の割合とする。
3. 目標未達の是正処置及び予防処置については、「是正処置及び予防処置報告書」に記載。

省エネ法長期目標の実績

※省エネ法に従い、集計期間は4月1日～翌年3月31日迄

芝川工場を含む事業者全体の原油換算エネルギー使用量

事業者の全体及び事業分類ごとのエネルギーの使用量(原油換算kl)

原油換算使用量(kl)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
事業者全体	1822	1542	1655	1571	1531

事業者全体の生産数量	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
生産量(トン)	16435	14026	15730	14569	15936

事業者の過去5年度間のエネルギーの使用に係る原単位の変化状況

エネルギーの使用に係る原単位	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	平均原単位変化
対前年度比(%)	98.1	95.5	102.6	96.8	98.2

事業者クラス分け評価制度：2024年度(令和6年度)に提出した2023年度実績の定期報告書について、2023年度実績クラス分けの結果は「Sクラス」でした。

2024年度実績の定期報告書では、エネルギーの使用に係る原単位は減少しましたが、特定事業者の取り消しとなる「事業者全体の原油換算使用量1500kl未満」にはなりませんでした。今後も継続して省エネへの取組を続けてまいります。

事業者クラス分け評価制度：2023年度(令和5年度)に提出した2022年度実績の定期報告書について、2022年度実績クラス分けの結果は「Sクラス」でした。

2023年度実績の定期報告書では、エネルギーの使用に係る原単位は減少しましたが、特定事業者の取り消しとなる「事業者全体の原油換算使用量1500kl未満」にはなりませんでした。今後も継続して省エネへの取組を続けてまいります。

VI 環境経営目標の実績，環境経営計画の取組結果と評価

第 63 期 環境経営計画の取組結果と評価

(運用期間:2023年8月～2024年7月)								
2024.8.7作成								
目標	項目	実施事項	責任者	評価	内容	コメント	次年度の取組	
二酸化炭素排出量の削減	購入電力	継続 工場内の設備稼働停止時の待機電源OFF	製造部 望月	○	実施中		継続	
		新規 PLC工程コンプレッサ更新 ※省エネ法中長期計画		—		64期以降に変更	継続	
		継続 事務所内照明の昼休み消灯	総務部 大川	○	実施中		継続	
		継続 事務所内室内温度(夏25℃以上、冬28℃以下)推奨		○	実施中		継続	
		継続 事務所内空調(エアコン)更新 事務所役員室1台(使用冷媒R22)		○	6月29日 役員室1台 空調設備更新実施	更新によるCO ₂ 排出量削減効果見込年間50.4%	完了	
上水道使用量の削減	上水	継続 節水コマの継続利用	総務部 大川	○	実施中		継続	
		継続 蛇口、冷水機等の日常点検		○	実施中		継続	
地下水使用量の削減	地下水	継続 冷却水循環利用	製造部 望月	○	実施中		継続	
		継続 冷凍機の水制御装置作動		○	実施中		継続	
		継続 貯水槽オバフローの排水回収		○	実施中		継続	
		継続 地下水使用量の把握(毎月)		○	実施中		継続	
		継続 対策の必要性判断と使用量削減対策		○	実施中	対策が必要な箇所は特になし	継続	
		継続 工場内配管の漏水調査と対策 (焼鈍炉更新時に酸洗南側を漏水調査予定)		○	漏水調査済み、漏水なし		完了	
産業廃棄物排出量の削減	産業	継続 産業廃棄物のリサイクル化推進(汚泥・廃プラ・木くず・廃油・廃油スラッジ、素管結束紐(廃プラ)の最終リサイクル)	産廃管理責任者	○	実施中		継続	
		継続 産業廃棄物の分別実施		○	実施中		継続	
		継続 低スラッジ型皮膜のテスト(公害処理の汚泥排出量低減) ※焼鈍炉更新後、焼鈍前皮膜工程を削除できるか見極め	製造部 望月	○	メーカーと打合せのみ実施		継続	
一般廃棄物排出量の削減	可燃	継続 紙ごみの分別	総務部 大川	○	実施中	令和6年4月1日よりプラスチック分別開始	継続	
		継続 社内内覧及び配布物の電子化推進 (各種会議資料・報告書等)		○	実施中	電子メールを活用し、徐々に紙配付が減少してきている	継続	
		継続 令和6年1月電子取引データの保存の完全義務化に向け、 有誤措置の間における準備、検討 ◎電子取引の洗い出し ◎電子取引データの保存方法の検討 ◎電子保存システムの検討		△	4月: システム会社0社と、電帳法の対応システムの導入スケジュール間検討会実施。(見積依頼、更新時期検討)	電子保存するシステムは、e-ValueのバージョンUPに併せて文書管理で進めて行く方針。	継続	
化学物質のSDSに基づく適正管理	化学物質	継続 第1種指定化学物質「チオ尿素」「亜鉛の水溶性化合物(硝酸亜鉛)」の取扱量把握	製造部 望月	○	実施中		継続	
		継続 「チオ尿素」「亜鉛の水溶性化合物(硝酸亜鉛)」のSDSに基づく適正管理(取扱者への教育訓練)		○	8/7～8/19 取扱者への教育訓練実施	教育訓練記録あり	継続	
		継続 SDS変更確認・最新版入手		○	SDS最新版、変更有無を確認・入手	変更なし	継続	
環境に配慮した物品の使用		継続 指定TSコードの購入	製造部 望月	○	実施中		継続	
		継続 再生品管端梱包用ビニール袋の購入		○	実施中		継続	
工場周辺の清掃活動		継続 工場周辺の清掃	総務部 大川	○	総務課員の適宜清掃と定期巡回	日頃の定期巡回により維持管理がされている。	継続	
ボランティア活動の実施		継続 年2回以上、ボランティア活動への参加		×	未実施	来期(64期)11月・2月に実施予定	継続	
防災訓練 緊急事態対応訓練の実施	防災	継続 防災訓練 (初期消火、放水、焼鈍炉移動式消火設備取扱い、避難)	防火管理者	○	9/1 消火器及び消火栓の初期消火訓練実施・2/21 AED1台新規設置、 取扱法について従業員へ説明会を実施	64期 大地震に備える緊急時対応訓練実施予定	継続	
		継続 緊急事態対応訓練	製造部 望月	○	8/21～8/23 管理職、炉/酸洗担当者に教育訓練実施	教育訓練記録あり	継続	
		継続 防災倉庫の備品チェック	総務部 大川	○	9/1備品数量のチェックと機能チェック実施(飲料水の賞味期限の確認含む)	引き続き、備蓄品の追加購入検討。	継続	

評価判定: ○(良くてた) △(まあまあでた) ×(できなかった) —(実施見送り)

Ⅶ 周辺の自然環境との調和と地域活動

工場周辺の清掃活動

適宜清掃と日頃の定期巡回を実施し、美化を維持しています。

小さな親切運動 清掃活動

2023年11月 静岡銀行主催にて「小さな親切運動」へ参加予定でしたが、主催側がコロナ感染多数の為中止となりました。

Ⅷ 放水訓練及び緊急事態対応訓練

放水・消火訓練の様子

2023/9/1

災害時における組織体制図による役割に従い、放水訓練を実施しています。



緊急事態対応訓練の様子

AED講習 1回目 2024年2月21日



AED講習 2回目 2024年4月17日



IX 次年度の環境経営目標と取組

次年度（第64期）の環境経営目標

1. 運用期間（2024年8月～2025年7月）の環境目標

項目	単位	基準期間	運用期間	
		59期 2019.8月 ～ 2020.7月	64期 2024.8月 ～ 2025.7月	
		基準値	目標削減率	目標値
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	2676854	-4%	2569780
エネルギー使用量	kl/t	0.10240	-4%	0.09830
購入電力	kl/t	0.04718	-4%	0.04529
ガス	kl/t	0.05522	-4%	0.05301
上水道使用量	m ³	405.5	-3%	393.3
地下水使用量	m ³ /t	3.846	-3%	3.730
産業廃棄物排出量	トン	994.77	-4%	954.97
一般廃棄物（可燃ごみ）	kg	323	-4%	311
化学物質使用量	SDSに基づく適正管理			
環境に配慮した物品の使用	指定TSコードの購入、再生品管端梱包用ビニール袋の購入			

<備考>

- 二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー（2017年度）の基礎排出係数「0.462kg-CO₂/kWh」を使用する。
- 「エネルギー使用量」「地下水使用量」は生産量による変動があるため、原油換算使用量を生産数量で割った原単位を目標値に設定する。
- 「化学物質使用量」「環境に配慮した物品の使用」の数値目標の設定は困難なことから、定性的な目標とする。
- 事業年度8月～翌年7月。

2. 中長期の環境目標

項目	単位	基準年度	目標年度		
		59期 2019.8月 ～ 2020.7月	65期 2025.8月 ～ 2026.7月	66期 2026.8月 ～ 2027.7月	67期 2027.8月 ～ 2028.7月
		基準値	削減率	削減率	削減率
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	2676854	-5%	-6%	-7%
エネルギー使用量	kl/t	0.10240	-5%	-6%	-7%
購入電力	kl/t	0.04718	-5%	-6%	-7%
ガス	kl/t	0.05522	-5%	-6%	-7%
上水道使用量	m ³	405.5	-4%	-5%	-6%
地下水使用量	m ³ /t	3.846	-4%	-5%	-6%
産業廃棄物排出量	トン	994.77	-5%	-6%	-7%
一般廃棄物（可燃ごみ）	kg	323	-5%	-6%	-7%
化学物質使用量	SDSに基づく適正管理				
環境に配慮した物品の使用	指定TSコードの購入、再生品管端梱包用ビニール袋の購入				

<備考>

- 二酸化炭素排出係数は、東京電力エナジーパートナー（2017年度）の基礎排出係数「0.462kg-CO₂/kWh」を使用する。
- 「エネルギー使用量」「地下水使用量」は生産量による変動があるため、原油換算使用量を生産数量で割った原単位を目標値に設定する。
- 「化学物質使用量」「環境に配慮した物品の使用」の数値目標の設定は困難なことから、定性的な目標とする。

IX 次年度の環境経営目標と取組

次年度（第64期）の取組

(運用期間:2024年8月～2025年7月)																
目標	項目	実施事項		責任者	スケジュール											
					8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
二酸化炭素排出量の削減	購入電力	継続	工場内の設備稼働停止時の待機電源OFF	製造部望月												
		継続	PIC工程コンプレッサー更新 ※省エネ法中長期計画													
		新規	伸管2号機、8号機のモーター交流化													
		継続	事務所内照明の昼休み消灯	総務部大川												
		継続	事務所内室内温度(夏25℃以上、冬28℃以下)推奨													
上水道使用量の削減	上水	継続	節水コマの継続利用	総務部大川												
		継続	蛇口、冷水機等の日常点検													
地下水使用量の削減	地下水	継続	冷却水循環利用	製造部望月												
		継続	冷凍機の水制御装置作動													
		継続	貯水槽オバフローの排水回収													
		継続	地下水使用量の把握(毎月)													
		継続	対策の必要性判断と使用量削減対策													
		継続	工場内配管の漏水調査と対策 (焼鈍炉更新時に酸洗南側を漏水調査予定)													
産業廃棄物排出量の削減	産業	継続	産業廃棄物のリサイクル化推進(汚泥・廃プラ・木くず・廃油・廃油スラッジ、素管結束紐(廃プラ)の最終リサイクル)	産廃管理責任者												
		継続	産業廃棄物の分別実施													
		継続	低スラッジ型皮膜のテスト(公害処理の汚泥排出量低減) ※焼鈍炉更新後、焼鈍前皮膜工程を削除できるか見極め	製造部望月												
一般廃棄物排出量の削減	可燃	継続	紙ごみの分別	総務部大川												
		継続	社内回覧及び配布物の電子化推進 (各種会議資料・報告書等)													
		継続	令和6年1月電子取引データの保存の完全義務化において電子保存システムの導入													
化学物質のSDSに基づく適正管理	化学物質	継続	第1種指定化学物質「チオ尿素」「亜鉛の水溶性化合物(硝酸亜鉛)」の取扱量把握	製造部望月												
		継続	「チオ尿素」「亜鉛の水溶性化合物(硝酸亜鉛)」のSDSに基づく適正管理(取扱者への教育訓練)													
		継続	SDS変更確認・最新版入手													
環境に配慮した物品の使用		継続	指定TSコードの購入	製造部望月												
		継続	再生品管端梱包用ビニール袋の購入													
工場周辺の清掃活動		継続	工場周辺の清掃	総務部大川												
ボランティア活動の実施		継続	年2回以上、ボランティア活動への参加													
防災訓練 緊急事態対応訓練の実施	防災	継続	防災訓練 (初期消火、放水、焼鈍炉移動式消火設備取扱い、避難)	防火管理者												
		継続	緊急事態対応訓練	製造部望月												
		継続	防災倉庫の備品チェック	総務部大川												

省エネ法長期目標：特定事業者の指定取消し

事業者全体の年度（4月1日～翌年3月31日迄）原油換算エネルギー使用量 1,500 kℓ未満

2024年度（2024年4月1日～2025年3月31日迄）継続実施

X 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

63期 環境関連法規遵守状況評価

遵守：○、不適合：×、該当無し：—

遵法評価実施日：2024年7月29日

法令・条例・通達名	遵守状況
エネルギーの使用の合理化に関する法律(略称：省エネ法)	○
エネルギーの使用の合理化に関する法律施行令(法律施行規則)	○
工場等におけるエネルギーの使用の合理化に関する事業者の判断の基準(平成21年経済産業省告示第66号)	○
地球温暖化対策の推進に関する法律(略称：温対法) ※第5条、第23条、第26条該当、第34条適用	省エネ法に含む
地球温暖化対策の推進に関する法律施行令 ※第5条第一号、第6条第一号該当	
静岡県地球温暖化防止条例 ※第4条第一項、第二項、第11条該当	
(第12条は静岡県地球温暖化防止条例施行規則第3条により該当しない)	
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(略称：フロン排出抑制法)	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律施行規則	○
第一種特定製品の管理者の判断の基準となるべき事項	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律(略称：廃棄物処理法)	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令(法律施行規則)	○
静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例(条例施行規則)	○
富士宮市廃棄物の処理及び清掃に関する条例(第3条)	○
水質汚濁防止法(法施行令・法施行規則)	○
排水基準を定める省令	○
水質汚濁防止法第3条第3項に基づく排水基準に関する条例(静岡県)	○
騒音規制法(法施行令・法施行規則)	○
特定工場等において発生する騒音及び特定建設作業に伴って発生する騒音について規制する地域の指定並びに特定工場等において発生する騒音の規制基準の設定(静岡県)	○
振動規制法(法施行令・法施行規則)	○
特定工場等において発生する振動の規制に関する基準	○
振動規制法第3条第1項の規定に基づき知事が指定する地域及び同法第4条第1項の規定に基づき特定工場等において発生する振動の規制基準(静岡県)	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(略称：PRTR法)	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律施行令(施行規則)	○
高圧ガス保安法	○
一般高圧ガス保安規則	○
毒物及び劇物取締法(略称：毒劇物取締法、毒劇法)	○
毒物及び劇物取締法施行令(施行規則)	○
消防法	○
危険物の規制に関する政令(危規則)	○
富士宮市火災予防条例(条例施行規則)	○
富士宮市危険物の規制に関する規則	○
静岡県地下水の採取に関する条例	○
静岡県地下水の採取に関する条例施行規則	○
浄化槽法	○
静岡県生活環境の保全等に関する条例(条例施行規則)	○

環境関連法規への遵守状況をチェックした結果、違反はありませんでした。

又、関係機関からの指摘、訴訟、環境に関して地域住民からの要求等もありませんでした。

評価者：環境管理責任者 大川達也

XI 代表者による全体の評価と見直し・指示

代表者による全体評価・見直し記録表

環境管理責任者

大川 達也

作成日

2024年 8月 12日

1・見直し関連情報	項 目		確認：（必要に応じて評価・コメント記載）
	1	環境経営目標及び目標達成状況	（文書・記録）63期環境活動計画書 <input checked="" type="checkbox"/> 二酸化炭素排出量、産業廃棄物排出量、可燃物排出量が未達。 継続して取り組みます。
	2	環境活動計画の実施及び運用結果	（文書・記録）63期環境活動計画書、63期是正処置及び予防処置報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 是正処置報告書の発行なし。詳細は管理台帳に記載あり。 継続して取り組みます。
	3	環境関連法規等の遵守状況	（文書・記録）63期環境法規取りまとめ及び遵守状況チェック表 <input checked="" type="checkbox"/> 継続して取り組みます。
	4	外部からの環境に関する苦情や要望等	（文書・記録）63期環境上の苦情・要望受付記録 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情・要望受付記録なし 継続して取り組みます。
	5	その他 （環境負荷、管理体制）	（文書・記録）63期環境への負荷の自己チェック表、環境管理体制図 <input checked="" type="checkbox"/> 環境管理体制図2024.8.1改訂

2・代表者による全体評価・見直し指示	全体評価・コメント （環境経営システムの有効性 環境への取組の適切性等）		二酸化炭素排出量が+8.74%と目標未達。 注意喚起・啓蒙活動を通じ、社員の意識は年々高まってきているが、生産量回復や酷暑対応によりCo2排出削減活動の限界を感じることも事実である。 設備メンテナンスや設備購入時には引き続き省エネ部品や設備を積極的に採用を続けていき、時間が掛かるが徐々に省エネ対策設備を増やしハード面での対応も進めていきたい。 <div> 2024年8月12日 トシダ工業株式会社 代表取締役社長 歳田 光太郎 </div>	
	見直し項目		変更の必要性	「有」の場合：環境管理責任者への指示事項等
	1	環境経営方針	有 ・ ③無	
	2	環境経営目標	③有 ・ 無	未達成になった要因を把握し目標の立て方を検討すること
	3	環境活動計画	③有 ・ 無	未達成の目標については活動計画を見直し、達成手段を増やすこと
	4	実施体制	有 ・ ③無	
	5	環境経営システム等	有 ・ ③無	